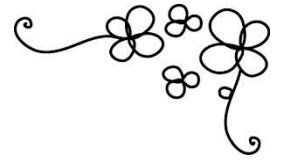
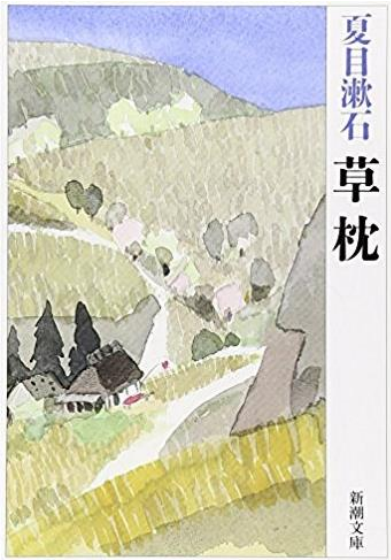


春の読書会 日本文学の名作を味わおう



夏目漱石『草枕』を読む



自分の心持ちを表現する絵を描きたいと望む青年画家は、山里の温泉宿で出会った那美に自分の画を描いてほしいと頼まれる。

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。」

「草枕」を読んだことのない方でも、この冒頭の一節をご存知の方は多いのではないのでしょうか？ 芸術論、英詩、漢詩がちりばめられ、自然描写の妙を味わえる漱石初期の作品。

と き 平成30年4月22日(日) 13時30分～16時頃

場 所 図書館 3階 会議室

座 長 作家 重田 昇先生(四街道市在住)

後援 四街道稲門会

申し込み 図書館1階・一般室 ※先着15名



蔵書のほか、青空文庫(インターネット上の電子図書館)、千葉県立図書館の「十冊文庫」(4月上旬より貸出)で読むことができます。(十冊文庫は先着10名、一般室にて予約受付)

問合せ 四街道市立図書館 TEL423-6443

読書会で深めませんか
読書の楽しさと表現力



四街道市立図書館の読書会

当館の読書会は、同じ一冊の本を事前に読んでいただき、読後の感想を交換し合うものです。必ず、テキストである「草枕」夏目漱石（著）を読んで、ご参加ください。

○所蔵しています

「草枕」 新潮文庫版、ほか B913.6 ナツ

漱石全集 第3巻 岩波書店 918.6 ナ

現代日本文学大系 17巻 筑摩書房 913.6 ゲ

講談社版（十冊文庫）1979 県立図書館から取り寄せます

※十冊文庫とは、読書会の利用のために同じ本を10冊揃えた千葉県立図書館の蔵書です。当館を通して貸出ができます。

普段、読書は一人で楽しむ場合が多いものですが、感じたことを他の人に伝えることもまた、楽しいものです。

感想を改めて言葉にして、他の人に伝える経験、自分とは違う解釈にふれることは、きっと新鮮な魅力や驚きがあり、読む楽しさを深めてくれるものと思います。



読書会の舵取り役として、知識・経験豊富な座長がいる読書会です。初めての方も気軽に、安心してご参加ください。



文学に造詣の深い作家を座長に迎え、作品の背景や興味深い逸話をまじえながら、解釈のポイントも学べます。楽しみながら、読後の感想を分かち合いましょう。

○『余が「草枕」』 漱石全集 第25巻に所収

夏目漱石自身が語る「草枕」。一読後に目を通しては如何でしょうか。創作の源、漱石の意図を知るに役立つ一篇です。

読書会は、複数で読書の楽しみを分かち合いながら深めていく
コミュニケーションの場です。



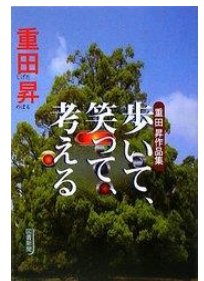
当館の読書会を通して、和やかな読書の輪が広がることを
願っています。



◆座長紹介

重田 昇（しげた のぼる）

昭和22年、徳島県生まれ。
早稲田大学在学中より創作活動を始め、
「早稲田文学」等に作品を発表。
昭和47年、長編小説「風の貌」を三交社より出版。



◆四街道市立図書館所蔵作品

書名	出版者	請求記号
○△□	情報センター出版局	913.6 シゲ
死の種子	情報センター出版局	913.6 シゲ
歩いて、笑って、考える	図書新聞	914.6 シ

◆座長からのひとことアドバイス



話すことに慣れていない場合は、
あらかじめ感想のポイントを
メモにまとめておくのもよい手だてです。

